坂井瑠実クリニック機関紙

# うえるうえる

Well Well

第49号
2019年 春号

20周年記念　忘年会

## 何とか20周年を迎えることができました。
## 奇跡としか言いようがありません。
## 皆々様！ ありがとうございました。

坂井瑠実クリニック 理事長 坂 井 瑠 実

阪神淡路大震災直後、どんな地震・災害が起こっても、命を落とさず、透析治療が続けられるクリニックを造りたい！の一心で、非常に大勢の皆様の犠牲、応援の上に奇跡的に出来上がったのが坂井瑠実クリニックでした。感謝を言葉にする間もなく、20年間来てしまいました。

分をわきまえず、誰にも相談せず、やりたいことを発作的にやってしまう厄介な性格は昔からで、周りの人に多大な迷惑をかけて、つっ走って来てしまいました。経営が大変になったからといって、勝手に始めた透析の世界に娘たちを引っ張り込むことだけはしないでおこう！もちろん、そう思っていました。

しかし結局、背負いきれない借金の保証人を強いて、留学先のNIHで知り合った彼ともども夢いっぱいだった脳外科の世界をあきらめ、方向転換をせざるを得なかった娘たちの気持ちを察する余裕はなく、いまだ謝罪と感謝を口に出来ていません。優しさゆえに今でも元気になれないでいる彼女を見ると胸が苦しく、彼女たちの人生をダメにしてしまった情けない鬼母は、後悔の毎日です。

担保もないのに、どうしても引き下がらない私を、支店では無理なので・・と東京から医療事業部の担当者を呼んで融資を実現してくださった東京三菱の中川支店長さん、支店長さんがいらっしゃらなければ、そもそもこのクリニックは存在していなかったのですから。本当にありがとうございました。

一本の電話があり、「神戸に透析病院を建てるというわさを聞いたんやけど下間（坂井の旧姓）さんのことか？同級生の自分に声をかけないなんて、水臭いやんか！」と。電話の主は敦賀高校の同級生で、阪大卒業後の消息はあまり知りませんでしたが、この時彼は鹿島建設の大阪支店長、広島から転勤で帰ってきたところだったとか。しかしいくら私が厚かましくても、建設業界ナンバーワンの鹿島に建ててもらうという発想は全くありませんでした。でもなぜか、紆余曲折、難産の末、坂井瑠実クリニックは天下の鹿島建設の設計施工となって、自分でもあきれるくらい立派な建物になってしまいました。

現場事務所で　小林所長の話を聞く

設計のコンセプトは、大震災の後だったこともあり、災害に強い透析施設づくりで、どんな災害が来ようともビクともしない耐震性の強い建物と、透析だけでなく必要な医療機器が十分稼働できる容量の自家発電と井水の確保でした。ここ御影はお酒造りで有名な灘五郷、ふんだんに湧き出る水が何よりも魅力で、この機関誌のネーミングを“うぇるうぇる（Well Well）”としたのは“良い湧き水・井水により、透析患者さんがより元気になる”との願いを込めたものでした。

喜ぶべきことではありましょうが、この20年間、年に一度の点検以外、これらの防災設備を動かす機会は全くありませんでした。どんな災害が来ても大丈夫という安心感はあるものの、設備にかけた費用や災害時の道路の混雑、交通手段の途絶を考えると、被災地の中で透析を可能にするという発想は現実的でないことにやっと気が付きました。

今、私の中の災害対策は、機会があれば旅行や出張等を利用して、遠く離れた施設での透析経験を積んでおくことだと思っています。行ったことのある所は行きやすく、いざという時に緊急透析ではなく、当たり前に稼働している透析施設で透析を受けることが身を守る第一条件だと思っています。

1998年4月　工事現場で

この震災の経験から、患者さんは“自分の透析は自分で考える”即ち、どのような生活、どのような人生を送りたいかは患者さんがご自分で考えるもので、私たちはなるべく皆様の意に沿う形でのQOLの高い透析をサポートする努力をすべき・・・と考え工夫しているつもりです。

平成10年10月10日、「御影腎センター」は開院するはずでした。開院の数日前、建物の覆いが取れて、建物の横に大きく書かれた我々のクリニック「御影腎センター」の文字を見た時は誇らしく、感慨深く眺め、幸せをかみしめていましたが、それもつかの間でした。もちろんクリニックの名前は「御影腎センター」で開設許可を頂いていましたが、医師会や透析医会の先生方の目に触れたとたん、大反対となり、結局、御影という地名も腎という臓器名も、センターなんて言う大きな名前もやめて、謙虚に自分の名前を名乗りなさいとの医務課からのお達しがきて、出来上がった看板の書き直しを命じられました。結局「坂井瑠実クリニック」と相成った次第です。（もし誰か、御影腎センターの名前の看板が写っている写真をお持ちでしたらご連絡ください。）

開院式には神戸の先生方はもちろん、遠路はるばる、太田和夫先生、前田貞亮先生、森井浩世先生、山崎親雄先生、斎藤明先生、川西秀樹先生等々お忙しい先生方が大勢来て下さり、感激でした。

最初の一年は利息のみの返済であったため気楽に楽しく診療を始めましたが、元本を返さないといけない時期に来て資金がショート。銀行をはじめ、ありとあらゆる取引先に頭を下げる役を買ってくれたのが、自分の仕事をすべて犠牲にして駆けつけてくれた、すぐ上の姉の三上珠実事務長と高校の同級生の金森哲四郎社長（彼は高校卒業後、苦労の末、一人で会社を立ち上げ、この時、大会社の社長になっていた）でした。本当にあ

真新しいクリニック

りがとうございました。二人の助けがなかったら、あのピンチを脱することはできなかったと思います。加えて開院時に“薬局もいるやろ!?”と、すぐ近くに薬局をつくってくれた同級生の内池さん（薬剤師で超美人）の、“支払いは、ある時払いの催促なしでいいよ！”の言葉はなんと心強かったことか・・・感謝です。

ボーナスも払えず、減給せざるを得なかった坂井瑠実クリニック。退職者が少なかったことは、かえって心が痛み、責任の大きさをあらためて思い知らされました。

この年、当然のことながら忘年会どころではなかった私やクリニックのスタッフに、「こんな時にしょぼくれていても仕方がない、金森が忘年会ぐらいしてやるわ！」とルミナリエでごった返す三宮、神仙閣で盛大な忘年会をしていただいたことを昨日のことのように思い出されます。

開院20周年、お世話になった皆さんにお礼と現状報告をしてすこしだけ安心していただきたいと思っていました。が、彼、金森哲四郎さんは昨年の3月末、他界。心配と迷惑のかけっぱなしで来た20年。知らせを聞いて駆けつけた時にはもう帰らない人になっていました。感謝の気持ちも伝えられず、お礼も言えずに、茫然自失。ただただ涙がこぼれました。長年、本当にありがとうございました。

おかげさまで20年間何とか過ぎました。スタッフも150人に増え、先生方も多くなり、順風満帆とは程遠い坂井瑠実クリニックでしたが、潰れず、何とかやってこれたのはクリニックを支えて下さったスタッフはじめ皆々様のおかげです。窮地に立たされるといつもだれかが現れて、何とかなってきたラッキー人間の坂井でした。お金の計算が全くできず、かといってどう工夫したら経済的に成り立っていくかも考えず、やりたい医療をまわりの迷惑も考えずにまっしぐら、突っ走って来てしまいました。昨年9月末、20年かかってやっと借金を完済することができました。

娘の亜矢曰く、“よくまあ、野生の勘だけで、これまでやってこれたわね！信じられないけれど、潰れなかったのは奇跡。スタッフはじめ、手を差し伸べていただいた皆々様に感謝を忘れたら罰が当たるよ！”と。まったく頭が上がりません。

本山クリニックで　喜田亜矢医師と

これから若い人たちは、勘だけでなく、研究や科学的なデータに裏付けられる世界に通じる腎不全医療を進めて行ってくれるものと信じています。そろそろ選手交代。坂井瑠実クリニックの第2ステージは、ち密な学問の上に、みんなが誇れる、世界に通ずる新たな面白いクリニックに育つて行くものと確信しています。本当に皆々様、ありがとうございました。どうぞ今後ともよろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

# 20年間で分かったこと：「透析時間は長いほど良い」

坂井瑠実クリニック 院長 喜田智幸

坂井瑠実クリニックは、この度、開院20周年を迎えることができました。この間、色々なことがありましたが、現在があるのも職員みんなのがんばりと、患者の皆様の御支持のおかげです。深く感謝申し上げます。

坂井瑠実クリニックは、平成10年10月10日に開院しました。私は、平成12年1月から19年間勤務しています。この間、坂井瑠実先生は、良い透析施設を作るために全力疾走をされてきました。私は遅れないように、必死についていく毎日でしたが、この間に分かったことがあります。それは、「患者さんにとって、透析時間は長いほど良い」ことです。

透析治療は、患者さんに通院、治療時間という拘束時間をしいます。貴重な時間を費やす拘束時間は、短い方が良いに決まっています。坂井瑠実クリニックが開院した頃に、ダイアライザ（透析器：血液を浄化する機器）は高性能になりました。その頃は世界的に、ダイアライザが良くなれば透析時間を短くでき、患者さんにとって良いのではないかと考えられていました。私も患者さんが望むなら透析時間をあまりのばさず、ダイアライザを大きくし、透析血流量を多くするなどし、対処した時期もあります。

しかし、結果は惨憺たるものでした。1年くらいでは、長い透析時間の患者さんとの違いはわずかなのですが、3年、5年、10年たつと合併症は明らかに多くなり、生活の質は低下し、寝たきりになる方や亡くなる方も増えました。現在では、どんなに透析機器が進歩しようとも、「患者さんにとって、透析時間は長いほど良い」ことは世界中で知られています。かなわない事ですが、「患者さんにとって、透析時間は長いほど良い」ことを昔の自分に伝えたいです。そのことを患者さんに伝えられず、結果、短い透析で患者さんを不幸にしてしまったことは、今も悔やまれます。

健常な人の腎臓は、毎日24時間、静かにゆっくりと働いています。一方、人工腎臓（透析）は、急激に、血液から余分な水分、尿毒素を除去します。しかし、人間の身体は、急な変化にはついていけません。血液中の尿毒素や水を短時間で除去しても、筋肉組織などの血管外から、血管内に水や尿毒素が移動するには時間がかかります。機械の性能は進歩しますが、人間の身体は変えることはできません。したがって、どんなに透析機器が進歩しても、「患者さんにとって、透析時間は長いほど良い」のです。

そこで、これからの透析医療に必要なのは、患者さんが容易に透析時間を確保できるようにすることです。坂井瑠実クリニックでは、2005年に芦屋坂井瑠実クリニックを開院したのを機に、在宅血液透析と施設でのオーバーナイト透析（夜間睡眠中の透析）を始めました。患者さん自身が、自宅で透析治療を行う在宅血液透析は、自分の時間を有効に使えるため、無理なく透析回数、透析時間を増やすことができます。その結果、食事制限は必要なく、体調は良くなり、合併症は減り、元気で長生きをすることができます。現在、透析時間を長くするために、世界中で在宅血液透析患者さんが増えています。また、オーバーナイト透析は、日中に透析のための時間をさけない方には有効です。眠る時間を透析治療に充てることで、それ以外の時間は自由に使えるようになります。眠る時間ですので、7時間以上の透析でも、あまり患者さんの拘束感はありません。

このように20年間、坂井先生の指揮のもと、よりよい透析治療を追い続けてきました。至らない点もあり、患者さんにご迷惑をおかけしたことも、あったかと思います。これからも、患者さんにとって快適で、よりよい透析治療を目指していきますが、「患者さんにとって、透析時間は長いほど良い」ことは、変わらないと思います。皆さん、できるだけ長い透析をして下さい。そして、元気で長生きしましょう。

# クリニック開設20周年によせて

芦屋坂井瑠実クリニック 院長 田中　寛

坂井瑠実理事長が坂井瑠実クリニックを開設されて、20周年を迎えました。20年といいましても、一言ではいえない本当に長い年月です。筆者が芦屋坂井瑠実クリニックにお世話になって、まだ8年が経過したにすぎません。そもそも、筆者の経歴を振り返ってみると、ほぼ10年刻みで、大きく職場が変わりました。大阪市立大学 医学部 泌尿器科学教室（大学からの派遣も含め）で11年、その後は大野記念病院（ここでは、13年間お世話になりました）、そしてフレゼニウス メディカル ケア ジャパンで10年です。筆者の今までの医師・社会人としての人生・職歴を振り返ると、やはり20年は恐ろしいほど長い時間です。もちろん、坂井理事長を中心に、三上珠実顧問をはじめ、多くの医師、看護師、臨床工学技士の皆さん、その他のコメディカルの皆さん、事務員の皆さんが、決して楽ではない日常業務をこなされ、いろいろな難関を乗り越えられての賜物と当法人の職員でありますが、敬意の念でいっぱいです。

ただ、医療の世界だけでなく、世の中を見渡しますと、創立50周年、100周年を誇る医療法人・会社などが散見されます。古都や大都会では、創業200年を超える家族経営の事業も少なくなく、驚きの念をもってその歴史を伺うことがあります。医療法人としての坂井瑠実クリニックとしては、喜田智幸先生、亜矢先生、ご夫妻のチームワークで、いつの日か坂井理事長からバトンタッチされ、さらに輝く医療を、さらなる発展、社会・地域への貢献、職員が安心して思いっきり働ける・輝く職場を目指していただきたいと陰ながら応援させていただきたいと思っています。

# 20年を振り返って

坂井瑠実クリニック 御影医局 三上満妃

坂井瑠実クリニックが開院20周年を迎え、周りを見渡すと私も古株の一員、入職16年目となりました。

振り返ってみて20年前と何が違うか、スマホが日常生活に入り込み、誰もが簡単に大量の情報を手に入れ、インターネットとモノがつながる時代になりました。健康管理面ではアウェラブル端末が発売され、身に着けると、血圧、心拍、消費カロリー、睡眠の深さなどをモニターできます。糖尿病では、血糖を常時測定し、数日間の血糖変動の様子をグラフで確認することができます。このように1日何回か測定ではなく、24時間常に情報を手に入れ健康状態を可視化できるようになってきたと言えます。

クリニックでは2年前に電子カルテが導入され、電子カルテを乗せたカートを押して回診しています。少し患者さんとの距離があり、坂井瑠実先生が婦長さんと回診をされていた時代が懐かしく感じられます。情報管理はしやすくはなりましたが、コンピューターばかりみて患者さんの顔を診ずなんてことにならないようにと心がけていますが。

10周年時、坂井瑠実先生が、発想も体制もキーワードはChangeチェンジとおっしゃっていました。AI技術が医療に入ってきており、10年後はどんなChangeが起こっているでしょう。AIの情報量と正確さで補完しつつも、患者さんの気持ち、日々の変化は計算でだせるものではなく、細かな気配りや、気付き、温かみがより必要となっていると思います。

私は、2年ほど前、病気療養で仕事を休ませていただいた時期がありました。その時に病の辛さを経験しました。そして仕事に復帰した時にスタッフ、患者さんから温かい言葉をかけて頂き、やさしさが心にしみました。いつの間にか仕事に支えられている自分に気が付きました。皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

病気を治す、予防するからより元気に活き活きと生きることを目指す時代になってきています。良い透析の提供はもちろんですが、今私が興味を持っている食事、栄養について、お元気さにつながるプラスαを提案していければと考えています。

# 花のボランティア20年

2019年正月花　浜田糧子先生

顧問
## 三上 珠実

御影クリニックの玄関ホールを飾る四季折々の生け花、浜田糧子さんがこの20年間欠かさず生け続けてこられたものです。理事長の友人Drの奥様として開院のお祝いに生けていただいたのが始まりで、1週間だけ、もう一か月だけと、とうとう10年を超え20年目を迎えました。

阪神大震災をきっかけに日本でボランティアが定着したといわれますが、まさに浜田さんはその長い年月を深夜のクリニックで一人お花と向き合い、週明けに治療に来られる患者さんのために花を生けてこられました。

2011年5月からは院内でフラワー教室が始まり、ロビーに展示した患者さんたちの作品の数々がＮＨＫテレビで放映されるという楽しいイベントもありました。

浜田さんは灘区で花の教室「花夢」を主宰する傍ら、海外でも数々の展覧会を催され大変多忙な方です。どんな時も10日と空けずにホールの生の花が入れ替わるエネルギーにはいつも感嘆してしまいます。

2009年のマルタ共和国バレッタでの花展、2011年のドイツトリア、2015年のカナダプリンスエドワード島、2017年のアメリカウッドストックでの花展などほぼ2年おきに浜田さんは国際交流の花展を開催されました。私も何か出来ることがあればとご一緒し、浜田さんの和をちりばめた独創的な生け花に世界各地の人々が感動するさまを間近に見てきました。

年間52週の20年余、1050回以上の花のボランティア、浜田糧子さん、本当に有難うございました。心からお礼を申し上げます。

尚、私はほぼ20年間クリニックに勤務させていただきましたが、昨年10月に事務長職を福江次長にバトンタッチいたしました。長い間お世話になりまして有難うございました。四六時中事務所の奥からお花を見ながら仕事ができたことにも感謝しております。

# 20年間の思い出と今後の抱負

事務長

## 福江 秀教

坂井理事長をはじめ多くの方々に指導していただき、20年間引っ張ってもらいながらここまで連れてきていただきました。

医療というものには、全く縁がなかった私ですが、偶然がいくつも重なり、出会いがあって、「定年まで面倒見るわよ」と言っていただいたことが決め手で、縁を感じてお世話になりはや20年、振り返ってみると本当に色々なことがありました。多くの人との出会いと別れ、貴重な経験をさせていただきました。

施設対抗のバレーボール大会、移植推進チャリティーゴルフ、テニス、テラスでのバーベキューなど多くのイベントも楽しんできました。新光先生と金川先生と3人で1泊2日出かけた、沼島への船釣りも不思議な思い出です。

二歩も三歩も、先が見える坂井先生の想像力に驚かされ、これからその先を引き継ぐことができるような施設にならないといけないと考えます。これからの20年は我々の世代が牽引し、次の20年へ引き継ぐことが務めだと感じています。

定年の年齢の変化も含め、世の中の様々な変化にも対応していかなければいけなくなりますが、これから先も今まで通り期待に応えられるような施設でいれるようスタッフ一同精進してまいりますのでよろしくお願いいたします。

居宅支援事業所 みのり　所長

## 西村 眞澄

平成10年10月10日に、「災害に強く、通院困難な方にも対応できる施設」との思いの中、坂井瑠実クリニックは開設されました。

平成12年介護保険制度が始まり「かなえ」訪問介護事業所が開設。平成14年には居宅介護支援事業所「みのり」が開設されました。

気が付けば、スーツ姿で出勤していた人達が、いつの間にかジャージ姿で犬の散歩にと変わっていました。急速に訪れる高齢化社会、介護を必要とする高齢者も増加しています。

介護保険の基本理念は、「できる限り在宅で自立した日常生活を継続できるように支援すること」です。これからも、介護を必要とする状態になることを予防する。介護が必要となった時も、介護サービスを利用して自立した生活ができるように支援していきたいと思っています。私自身、高齢者の仲間入りですが、元気な高齢者だと思っています…。共々に「元気に年を重ね、自分らしい毎日を過ごしていきましょう」

坂井瑠実クリニック　看護師長

## 城井 慶子

透析室、病棟、外来部門を経験させて頂き、血液透析に加えて腹膜透析では家庭訪問、勉強会を開催させて頂きました。在宅血液透析においては在宅チームの一員として外来部門での支援を担当しています。在宅での血液透析では、透析量の十分な確保とQOLも上がることから「人生が変わる!」と患者様から日々教わっています。

また、機関紙うぇるうぇるの編集に携わり、透析医療の変遷とクリニックの発展と共に、様々な学会への参加やイベントからも臨床と学術をリンクさせる多くの事を学ばせて頂きました。

透析を抱えながら人生を歩まれる患者さんの、支援チームの一員になりたいと入職し、あっという間に17年が過ぎたように思います。

師長職となり、坂井理事長はじめ院長、先生方や各分院の役職者ともに、皆様からの教えをもとに、スタッフ皆と歩んでいく所存です。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

坂井瑠実クリニック　技士長

## 松川　誠

開院20年を迎える節目の今年は天災が続き、関西においても地震や台風の影響により公共交通機関が使用できず、通勤や患者様の通院に支障をきたしました。都市型災害の影響力は大きいものと痛感しています。ご存知かと思いますが20年前、災害に強い透析施設とし坂井瑠実クリニックが開院しました。天災の多かった今年、今一度災害に強い施設であるかを見直す良い機会と思いました。また本当にあっという間の20年間であり大変多くの事を学ぶ事が出来ました。飲み会での出来事も多く思い出され、坂井先生を中心にスタッフのみならず患者さんも宴会大好きなクリニックであったように思われます。坂井先生をはじめ当初のスタッフや患者様方には私を今日まで育てていただき感謝しております。私も40代半ば社会人としても折り返し地点まだまだ半人前ですが皆様に安全、安心透析医療を御提供出来るよう精進していきたいと思いますので今後とも宜しくお願い致します。

薬剤師

## 蔡　東玲

私は2001年4月から勤務させて頂き、在職18年弱になります。入職時生後6ヶ月だった末っ子も18歳になりました。この間、私自身も病気を経験し、患者様の気持ちを理解出来るようになったかと思います。

坂井先生は阪神大震災の経験から震災に強い施設を御影に開院されてからも、二日空きを作らない隔日透析、長時間透析、夜間透析、在宅透析と次々と患者さんにとってより良い透析を考え、実践するために芦屋、本山を開院されました。そのアイデアと実践力にはいつも感服いたしました。

薬剤師の立場から、20年を振り返ると、透析患者さんに最も頻度の高い合併症である二次性副甲状腺亢進症の治療薬、その引き金となる高いリン血症の治療薬など、新薬が次々と上梓されました。特に2008年1月にシナカルセト（商品名レグパラ）が発売され、それまで毎週のように行われていた副甲状腺摘出の手術が徐々に減り、この1年間では数件になりました。

医療は日々進歩しています。私は長生きすればそれだけその恩恵を受けることが出来、より長生き出来ると考えています。これからも皆様がより良い治療を受けられるためのお手伝いが出来るよう頑張りたいと思います。

本山坂井瑠実クリニック　看護師長

## 新治 純子

坂井瑠実クリニック開設20周年、おめでとうございます。常に患者さんがいきいきと元気で生活できるようにという、理事長の強い信念のもと多くの困難を乗り越えられ、今日に至ったことと思います。

私は本山坂井瑠実クリニック開設からお世話になっており、クリニックの歴史からみれば、まだ6年生になったばかりの新米です。私自身、透析治療に関わり40年近くなりますが、在宅血液透析、長時間透析、オーバーナイト、隔日透析と、本山に来て初めての経験をさせて頂きました。一番の驚きは、外来患者さんと家族の見分けがつかなかったことです。本当にお元気で、顔色も一般人と遜色なく元気な様子にびっくりでした。透析量を確保するための選択肢が広がることで、こんなに元気になるのかと、それまでの概念を覆されました。さらに、睡眠時間を利用する夜間透析という、患者さん目線の発想ができるからこそ、多くの患者さんの支持を得ているのだと納得できました。今後も、理事長のこの姿勢と信念を支え、患者さんのために私たちも努力させて頂きたいと思います。

芦屋坂井瑠実クリニック　透析室長

## 井下 みどり

私と坂井理事長との出会いは、友人の面接について行ったことがきっかけです。今考えれば、面接に友人が付き添うなんて、おかしな話だと思いますよね（笑）

友人から面接に行くとは知らされぬまま、知り合いの先生が、御影に新しいクリニックを建てているから見学に行こうと誘われ、行ってみたら坂井理事長の熱弁、建設中のクリニック内を見学、帰る頃には、友人の策にはまり就職。あれから20年…（綾小路きみまろのごとく）20年の間に、御影から芦屋に転属、もう芦屋での勤務の方が、長くなりました。本当にいろいろあった20年でした。今までにない透析医療を知り、勉強し、努力し、楽しくもあり、面白くもあり、しんどくもあり、患者さんのために！と、坂井理事長と一緒に走ってきた20年だったように思います。開院当初からの患者さんは、20年以上透析されている方もおられます。人生まだまだこれからです。自分らしい人生を送れるよう頑張りましょう。

本山坂井瑠実クリニック　技士長

## 宮﨑 勇人

坂井瑠実クリニック創立20周年おめでとうございます。

自分は、本山坂井瑠実クリニック開院時からお世話になっています。

この度、2018年10月1日から本山坂井瑠実クリニックの技士長を拝命しました。

すべての情報が自分の所に入ってくる事にとまどいながら、あっという間に2018年も終わってしまいました。今更ながらに責任の重大さを痛感しているところです。

開院当初、患者様自ら透析装置の警報を止めている姿を見て、びっくりしたのを今でも鮮明に覚えています。それまでは、一般的な透析施設で働いていましたので、患者様自身が透析装置を操作することなど頭に無く、むしろ触らせないという状況でした。

今後、スタッフ一人一人が個々の力を発揮でき、立場や役割に責任を持てる職場環境を作っていきたいと考えています。

この大きな節目の年に、坂井瑠実クリニックの一員であることを誇りに思い、今後のクリニックと透析医療の発展に、微力ながら貢献していきたいと思います。

# マザー・ルミ

近畿大学教授　古薗　勉

20周年記念講演　スプリングセミナー（5月）

マザー・テレサは世界の誰もが知る修道女であり、苦しみの中にある人々に安息をもたらした長年の功績により、1979年にノーベル平和賞を受けています。私の好きな本に、『置かれた場所で咲きなさい』というベストセラーがありますが、著者の渡辺和子さんは、深い愛情と慈しみを人々に与え続けるマザーに心から尊敬の念を抱いておりました。

さて2007年のある夜、私は妻とともに坂井瑠実先生の元を訪ねました。当時、吹田市にある国立循環器病センターの研究職にあった私は透析歴20年を超えて、とうとう週３回４時間の透析では満足に働けなくなっていました。それと前後して昇格選考に敗れたことなども相まって、職を辞して故郷鹿児島に帰ることを考えていました。透析患者としてこれまでよく頑張ってきたと、自らを慰めていた私でありました。そのような私をみて、坂井先生は「透析量を増やせばすぐに元気になりますよ」と温かな笑みを浮かべて、そうお話下さいました。

それから、自宅近くの透析施設で週３回の治療を行い、日曜日に芦屋まで出向いて在宅血液透析のトレーニングを受けました。この週４回の透析は、暗闇の中にあった私の身体と心に光を照らし力を蘇らせ、再びチャレンジャーとして生きる方向へと舵を切らせてくれたのです。現在では、大学教員として、またすべての腎代替療法（血液透析・腹膜透析・腎移植）を経験した患者として活躍の場を与えてもらっています。もうすぐ、透析導入から33年目を迎えようとしています。

坂井瑠実クリニック20周年、誠におめでとうございます。前職の秘書が、「坂井先生は“透析の母”と呼ばれているのですよ」と教えてくれました。それは、透析がこの国で産声を上げた頃から、献身的に患者のために尽くしてこられた事実ゆえに他なりません。私たちのマザー・ルミのクリニックが、腎臓病で苦しみの中にある人々の永遠の救いであり続けることを心から願ってやみません。

## 患者会の皆さま

### 中村 弘道

坂井瑠実クリニック開院20周年誠におめでとうございます。理事長はじめ優秀なスタッフの皆様に大変お世話になり、19年間元気で透析生活を送らせて頂いております。

忘れもしません1999年12月30日緊急シャント手術、大晦日の31日から透析開始、2000年の年明けは不安な気持ちで一人寂しく病院で正月を迎えました。懐かしい苦い思い出です。10周年記念パーティーで、10年後も元気で透析も仕事も頑張ろうとの目標、達成できました。今度は後7年80歳まで元気で頑張ります!

私事で恐縮ですが、摩耶山への毎日早朝登山、ラジオ体操8000回達成しました。大きな目標10000回目指して雨風に負けず、朝早起きして山歩きをし、ラジオ体操頑張ります。4月からは娘夫婦、孫4人合計8人の同居が決まりました。夫婦2人の静かな生活からにぎやかな暮らしが始まります。若いエネルギーを貰いながら健康老人目指して努力したいと思います。

スタッフの皆様にはもうしばらくお世話になりますがよろしくお願いします。

### 田中 辰男

病院スタッフの皆様、ご開院20周年本当におめでとうございます。

医療情勢が厳しいなか、私たち患者に対し安心して治療生活を送れる環境を作って下さり、本当にありがとうございます。

阪神淡路大震災の教訓を生かし、災害に強い病院をという坂井先生の強い意思のもとで、平成10年10月10日に開院し早や20年を迎えました。当時は患者100名程、患者会の会員も60名程で、会の運営・維持に大変だった事を思い出します。その後、病院スタッフのご努力で芦屋・本山にクリニックが増設され、透析方法も、CAPD・長時間・隔日・オーバーナイト・在宅といった患者の方から選べる透析方法を提供して下さり、県内は勿論、全国でも誇れる施設になりました。本当にありがたく思っています。

私にとりましても20年の間、色々なことがありました。出会いあり、別れありということで、特に別れのなかでは病院開院当時から、坂井先生の片腕と言っても過言でない近藤技士長との別れ、患者会に貢献された伊丹さん・池田さん・精松さん・若林さんなどなどの別れ、早くして亡くなられたことが本当に残念です。その頃は今と違ったところもあり楽しかったです。

20年間の体調の変化では、両腎臓摘出手術、2回の副甲状腺摘出手術、20数回のシャントPTA手術など色々な合併症を経験しました。でも良きスタッフの皆様に囲まれ、体力はかなり落ちましたが、何とか日常を過ごすことが出来ています。

これからも好きなゴルフ、ウオーキング、旅行を楽しみながら透析も頑張っていきたいと思っています。スタッフの皆様、これからも相変わることなくよろしくお願い致します。

ご開院20周年、本当におめでとうございます。

### 定森 孝弘

うぇるうぇる20周年記念号発行、おめでとうございます。この20年、私が大きな病気で入院することもなく過せているのは、当病院の皆様のおかげだと日々感謝しています。

私自身、透析歴も35年を迎えました。長く治療を続けられた秘訣はと問われても実はさっぱり分かりません。普段は仕事と家庭の事で頭がいっぱいで、あまり節制もできていません。ただ、週3回の透析は血液浄化の時間だけでなく、生活の一部として自分自身をリセットできる時間だと思っています。年齢と共に身体的衰えも感じる昨今で、今後仕事に支障が出るようになるかもしれませんが、先輩方のお話を聞きながら自分の人生を歩んでいきたいと考えています。

昨年、C型肝炎治療を受けました。長く諦めていたのですが、副作用も全くなく、治療効果を得て、現在ではデータも基準内を維持しております。医療の進化を実感しました。もちろん、今でも治らない病気は数多く、医療の限界もありますが、今できうる最善のことを示してくれるこの病院の一患者として、これからも命を大事にしていきたいと思います。

## 竹内　稔

創立20年記念おめでとうございます。

開業当初から坂井瑠実クリニックでお世話になっています。透析年数は31年が過ぎ、ベテランの域になってきました。

人工透析を受けるようになって、保存期の辛い食事制限から解放され、美味しく食べられるようになったことが嬉しかったです。仕事は透析時間の影響を受けますが、フレックスタイムを上手く使ってフルで働いています。

これまでに透析に関わるトラブルは、透析導入時に通院し始めた最初日に透析帰りに低血圧と手足のつりで酷い目に（今なら対処し方法がわかりますが）。5年目に手首のシャント瘤が大きくなり破裂しそうで怖くなり手術しました。あとPTH高値により副甲状腺摘出術（PTX）を20年前にクリニックで受けました。透析以外に7年目にちょっと精神的な疲れにより十二指腸潰瘍になったこと。

透析歴が長くなると色々とありましたが、透析環境に恵まれ、元気に生活ができることを幸せに感じています。

## 難波 徹子

坂井瑠実クリニック創立20周年おめでとうございます。

私の透析ライフは、坂井先生の住吉川病院時代に始まり35年になります。

息子が3歳、仕事（小学校教員）もあり、不安のどん底。坂井先生の「仕事は続けたほうがいい・・・」との励ましにより、家でできる腹膜透析を選択。冬休みの間に入院施術。3学期には元気に復職。3年後、移植推進活動にもご熱心であった坂井先生の話に心動かされた私は、賛同してくれた母をドナーに移植に突進!! 息子が高校卒業までの13年間、移植腎は働いてくれました。お陰で仕事も家庭生活も充実した日々を過ごせました。

その後の再透析ではPDとHD併用療法を行い、現在、在宅透析8年目に至っています。どの療法もその時点での最善の選択であり、一歩前進した喜びを昨日のことのように思い出します。

在宅透析との出会いは、週3回の透析では不十分だと感じていたまさにその頃、在宅透析の座談会が当院で開催され、『これだ!!』と思い、より元気に生きたいという選択をしました。

在宅透析は、一日のサイクルの中で自分に合った透析ができ、体調も改善し、無理なく普通に近い生活が送れます。あの時、決断して良かったと思います。これからも、元気な透析仲間が増えることを願っています。

## 泊　一誠

新年明けましておめでとう御座います。

昨年末には坂井瑠実クリニックの20回目の創立記念日を迎えられおめでとうございます。

御影に続き本山そして芦屋と次々と開院され、芦屋に開院直後から住吉川病院より転院して現在にいたっています。

坂井瑠実先生のもとスタッフ一同透析患者の立場になって対応してくださる事を感謝しています。それ以前の透析では1～2時間経過するころから血圧が下がり嘔吐する等のショック状態になる患者が数名おられました。私の透析導入期の頃は除水の設定は自分の過去の除水量とその時の静脈圧を参考にして静脈チューブを締め付けることで除水量を調節していました。今は引く量を機械に設定したらその通り引けていますが、当時は除水目標に対して500グラム程度の誤差は常時ありました。中には体重計の付いたベッドが2～3台あり体重コントロールをきちっとする必要のある人が使っておられたようです。

透析技術の進歩は40年程前とは目を見張るほどのものがありますが、それに加えて坂井瑠実クリニックでは長時間透析をして頂いていることが、我々透析患者にとって何よりも有難い事だと思います。

週3回の5時間透析している時と、現在の隔日6時間透析とでは

第一に：中2日が無くなったことで体重の増えとか、のどの渇きによるストレスが無くなった事。

第二に：血液検査値が良くなってヘモグロビンが高くなり、ヘマトクリット値が上がり息切れが無くなった事。

等などでした。

私事ですが、40年前の導入期から今の様な長時間透析が出来ていたら長期透析患者の合併症はもっと少なく健常者とたいして変わらない生活が出来るものと感じます。

長時間透析をしている病院も増えつつあるようですが、患者が望めば長時間透析を出来る坂井瑠実クリニックで自分自身透析出ていることが有難く感謝の気持ちでいっぱいです。

今は腰椎のすべり症で歩くのが不自由ですが、散歩出来る様になりたい!

## 岡田 京子

創立20周年、おめでとうございます。私は、坂井瑠実クリニック創立の翌年より御影本院で透析を開始し2008年に芦屋へ転院、現在、クリニックと同じ透析歴20年になりました。初診の時、貧血でフラフラの私に坂井理事長は「大丈夫!元気になるから心配はいらないよ。」と力強く言って下さり、今はその通りになったと実感しています。

透析2年目からは、患者会活動、ジャスミンの活動、うぇるうぇる編集員等に携わり沢山の方に色々と教えて頂き、今の私があると思います。

また患者会で、坂井理事長の還暦のお祝いをスタッフと患者達とで住吉川でバーベキューを行ったあの時の坂井理事長はアルプスの少女「ハイジ」のようですごく可愛らしかったです。(笑)

あの頃は、スタッフも患者達も若くて元気でしたし、何かにつけてもやりがいがあり懐かしく思います。今は、施設が3つに分かれ、それぞれの患者達の顔もスタッフの顔も分らず、少し寂しい気持ちですが、これからもスタッフが楽しく、患者達が元気にいられる環境での透析施設であればいいと思います。

## 細谷　誠

2008(平成20年)年5月29日(木)が坂井瑠実先生と初めてお目にかかった日です。「もうちょっと早く来たら良かったのに・・」、本院の食堂に昼、夜と通い病院食を、朝は林管理栄養士の指示によるパン食での食事療法を開始しました。

しかし、クレアチニンが8に達し、まだ遊びたいので坂井医師と相談し「PDファースト」の指示で2011年腹膜透析を導入、腹膜透析液を持参して国内・海外旅行も継続しました。

その内に腹膜透析液や荷物を持たなくても行けるクルーズ船なら客室内で腹膜透析ができる旅行の楽しみを覚え海外(香港等)・国内(小笠原・沖縄・北海道等)を楽しみました。

2012年春に栗栖検査技師の腹部エコー検査で左腎臓癌が発見され、即刻神戸中央市民病院にて左腎臓全摘、10日間で退院、クルーズ船での旅行を再開した。

透析中にはクルーズ船のスケジュール、飛行機の時刻表、ツァー案内など日程を見て、「だから行けないでなく、こうしたら行ける筈」を考えながら時間を経過しています。このように引き続きQOL向上の努力を続けています。

患者会も腹膜透析開始前から幹事をさせて頂き、本山坂井瑠実クリニックが開設さてからは幹事を、本山坂井瑠実クリニック友愛会が出来てから代表幹事を務めましたが今年からは代表幹事を鎌倉氏にお願いをし2019年3月末までは会計幹事をさせて頂いています。

2018年本山坂井瑠実クリニック友愛会のクリスマス会はプロの女性腹話術師「やないあつ子」さん(YouTubeで検索してご覧下さい)、ピアノ・バイオリン・チェロの三重奏に来て頂き大人のクリスマス会で参加者には「笑い」と「幸せの奏」で好評を得ました。

## 黒越 尚美

坂井先生が「大震災にも強く、質の高い透析」を実現してくださいました。透析のスタート時間が自由になり、隔日透析により土日の食事制限が緩やかになり、家族と同じものを食べ、週末にはテニスを楽しめる体力が維持できました。その間手根管、血流、脊柱管狭窄症の手術を先生の適切な方針のもと乗り越えることが出来ました。更にはオーバーナイト、夜間寝ている時間を使っての透析が可能になり長時間透析も経験いたしました。この透析環境であれば平均寿命以上生きることも夢ではないと思い始めたころ移植の意思確認の電話が突然ありました。戸惑う私を先生が背中を押してくださり翌日には手術。執刀医から34年も透析したとは思えない綺麗な血管でしたとの感想。長時間透析のお陰であると実感いたしました。

坂井先生には生きる希望を与え続けて頂き心から感謝しております。そして今後も楽しいと感じる心を大切に日々を過ごしていきたいと思っております。

# 医療法人社団 坂井瑠実クリニック（御影・芦屋・本山）の現況

## 透析時間と回数

（2018年9月末）

### 施設透析（患者数 354名）

| 回数＼時間 | 3 | 3.5 | 4 | 4.5 | 5 | 5.5 | 6 | 7 | 8以上 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | | 1 | | | 3 | | | | 1 | 5 |
| 3 | 1 | 2 | 87 | 24 | 84 | 2 | 25 | 10 | 9 | 244 |
| 3.5 | | | 14 | 2 | 26 | | 8 | 1 | 9 | 60 |
| 4 | | | 13 | 1 | 12 | 3 | 5 | 2 | 8 | 44 |
| 5 | | | 1 | | | | | | | 1 |
| 合計 | 1 | 3 | 115 | 27 | 125 | 5 | 38 | 13 | 27 | 354 |

※　　は　HDP　72以上（(透析回数)²×時間）

### 在宅血液透析（患者数 70名）

| 回数＼時間 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8以上 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | | 1（PDと併用） | | | | | 1 |
| 3.5 | | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 6 |
| 4 | | 6 | 5 | | 1 | | 12 |
| 5 | 5 | 10 | 4 | 2 | 3 | 1 | 25 |
| 6 | 6 | 4 | 3 | 4 | 2 | | 19 |
| 7 | 2 | 2 | 1 | 2 | | | 7 |
| 合計 | 13 | 24 | 15 | 9 | 7 | 2 | 70 |

※　　は　HDP　72以上（(透析回数)²×時間）

### 腹膜透析（CAPD）

| | 2008.9 | 2018.9 |
|---|---|---|
| CAPD（HD併用含む） | 23 | 7 |

### 移植（48名）

| | 1998.10～2008.9 | 2008.10～2018.9 | 計 |
|---|---|---|---|
| 献腎移植 | 8 | 13 | 21 |
| 生体腎移植 | 9 | 14 | 23 |
| 海外・その他 | 2 | 2 | 4 |
| 合計 | 19 | 29 | 48 |

日本の血液透析は90%が週3回4時間ですが、健常人の半分しか生きられていません。多くの国は透析は腎移植のつなぎの医療との位置づけで、移植推進にむけた取り組みが活発です。体格が大きくても小さくても、若くても年を取っていても、食事量が多くても少なくても、一律に週3回4時間ではおかしいと思いませんか？ この時間は過酷な食事制限をしてやっと生きていける必要最低限の透析量なのです。

昔から透析患者さんの救急入院もしくは死亡は月曜か火曜と決まっているというのが透析スタッフの常識です。今の時代、効率を上げる透析はいくらでも可能ですが、体がついていきません。透析直後も元気でなければ、QOLの良い透析とは言えません。

当院の患者さんの透析時間はオーバーナイトや在宅血液透析等行っているため、長いのが特徴ですが、誰でも一日24時間しか持っていません。回数、時間はご本人が決めるものと考えています。自分のことは自分で考え、回数も時間も決めるは患者さんで、これこそが自己管理です。

私たちスタッフはなるべく患者さんたちの要望にこたえるよう努力は惜しみませんが当たり前の人生を、元気で、当たり前の寿命まですごしていただける透析を考えていただきたいものです。加えて、移植ももっともっとポピュラーなものにしたいものです。

皆さん！ 透析をされている患者さんももちろん、移植に関する意思表示をされていますか？ もちろん“ノー”でもよいのです。いつでも変更もできますのでイエスでもノーでも免許証や健康保険証の欄に記入してください。

（理事長　坂井瑠実）

# 創立から20年 クリニックの歩み

NEWS

**1998 平成10年**
坂井瑠実クリニック開院（10.10）
4Fハイム御影入居開始（11月）
患者会設立総会　友愛会発足（12.1）

開院式の玄関前

長年難病にかかわり新光先生勲3等瑞宝章叙勲される

**1999 平成11年**
入院開始　一般病床19床（1.11）
第1回友愛会クリスマスパーティ
　武庫の郷で（12.21）
ハイム御影クリスマス会（12.25）

4Fハイム御影クリスマス会

神戸市難病連送迎支援の会ジャスミン発足（1月）

**2000 平成12年**
ハイム御影にかなえ訪問介護事業所開設
友愛会第1回定期総会　勉強会・スプリングセミナー2000（4.1）
第1回クリニックスタッフと患者会の懇談会（8.27）

介護保険制度が実施される（4月）

**2001 平成13年**
フラワーアレンジメント講習会始まる　濱田先生（5月）
友愛会バスツアー　フルーツフラワーパーク（7.22）
医療法人設立認可　坂井瑠実理事長就任（11.12）
3周年記念式典　長期透析者表彰（12.9）
機関紙うえるうえる創刊（12月）

3周年記念式典

**2002 平成14年**
居宅介護支援事業所みのり開設（2.1）
第13回日本サイコネフロロジー研究会当院主催（6.30）
友愛会バスツアー　防災センター・須磨海浜水族園（7.14）
第4回友愛会クリスマスパーティ　ポートピアホテルで（12.15）

日本サイコネフロロジー研究会

**2003 平成15年**
透析ツアーハワイ旅行（2.16～2.21）
ハイム御影閉鎖（3月）
病棟4Fへ、南透析室オープン（7月）
友愛会バスツアー　武蔵の郷（9.7）
第1回坂井瑠実クリニックゴルフコンペ（11.30）

透析ツアーハワイ旅行

**2004 平成16年**
第1回近藤宏二杯ボーリング大会（1.28）
友愛会バスツアー　六甲山
第1回阪神タイガース応援ツアー（9.28）

**2005 平成17年**
芦屋坂井瑠実クリニック開院（4月）　坂井院長就任
本院には喜田院長就任
隔日透析、オーバーナイト透析、在宅血液透析始まる
友愛会バスツアー　淡路・鳴門・大塚美術館（7.24）

芦屋クリニック開院式

**2006 平成18年**
福西先生移植外来始まる（4.1）
友愛会バス旅行　花鳥園（7.23）
患者会幹事とクリニックスタッフとの座談会（11.26）

**2007 平成19年**
第4回ボーリング大会(2.4)
友愛会バス旅行　三田シイタケ園(6.10)
長期透析者　うぇるうぇる座談会(9.9)

**2008 平成20年**
友愛会バス旅行　京都嵐山(4.25)
創立10周年記念式典
　ポートピアホテルで(10.26)
第4回長時間透析研究会主催
　神商ホールで(11.30)

10周年記念式典

後期高齢者医療制度実施(4月)

**2009 平成21年**
スプリングセミナー2009　ファッションマートで(4.26)
第11回友愛会クリスマス会　ホテルオークラで(12.13)

新型インフルエンザ発生

**2010 平成22年**
芦屋クリニック5周年祝賀会　ポートピアホテルで(5.9)
友愛会バスツアー　奈良法隆寺・平安宮跡
芦屋クリニック田中院長就任(10.1)

バス旅行　法隆寺

**2011 平成23年**
友愛会バス旅行　淡路島(5.22)
御影クリニック日曜透析開始(7.3)

東日本大震災(3.11)

**2012 平成24年**
友愛会バス旅行　倉敷(5.13)

送迎ボランティアジャスミン10周年(6.3)

**2013 平成25年**
第16回在宅血液透析研究会当院主催
　ファッションマートで(4.27)
友愛会バス旅行　京都嵐山・映画村(5.19)
本山クリニック開院　坂井院長就任(8.1)
オーバーナイト開始(8.19)
第15回友愛会クリスマス会　ベイシェラトン(12.8)

本山オーバーナイト透析施設

**2014 平成26年**
友愛会バス旅行　伊勢神宮(5.25)
在宅血液透析懇話会　ファッションマート(11.9)

消費税8%となる(4月)

**2015 平成27年**
友愛会バス旅行　姫路城(5.10)
第17回友愛会クリスマス会
　ベイシェラトン(12.6)

バス旅行　姫路城

マイナンバー制度始まる

**2016 平成28年**
スプリングセミナー2016
　ファッションマートで(5.8)
友愛会バス旅行　三田椎茸ランド(5.29)

熊本地震発生(4月)

**2017 平成29年**
友愛会バス旅行　近江八幡(5.28)
在宅血液透析懇話会　ファッションマート(12.2)

**2018 平成30年**
スプリングセミナー2018　開院20周年記念講演(5.13)
坂井瑠実クリニック
　創立20周年(10.1)

新光 毅先生

20周年の集い

西日本豪雨(7月)

# 2018 友愛会クリスマス会

## 御影友愛会

12月2日、御影友愛会のクリスマス会が神戸第一楼にて開催されました。代表幹事さん、福江事務長の挨拶に始まり、乾杯、中華の宴が始まりました。

スタッフ黄さんによるはまり役もサンタクロース登場に、会場は大いに盛り上がり、子供たちも大喜びで、さらにクリスマスブーツに大はしゃぎでした。

恒例のプレゼント抽選会にカラオケ大会と大いに盛り上がり、楽しい時間でした。

## 本山友愛会

12月9日本山友愛会のクリスマス会が神戸ベイシェラトンにて開催されました。坂井先生、そして新たにご就任された金子先生のご挨拶に始まり、乾杯そしてディナーが始まりました。大内山ファミリーのピアノトリオの演奏に心洗われ、きよしこの夜を皆で歌いました。

新たなスタッフ紹介、中原さん、平田さん、大塚さんのご紹介があり、そのあとは、福わ術師　やないあつこさんのショー。抱腹絶倒と言われていましたが、本当に笑い転げました。

そしてスタッフ安部さんが扮するサンタによる恒例のお子様へのお菓子ブーツの贈呈。そのあとはご寄付をいただいたお品をゲットする抽選会が行われました。皆が真剣になる瞬間です。

そして20数年（?）前に、お兄様から生体移植を受けられた患者さんが、ご自身のお話をしてくださいました。受けるばかりではなく、感謝の気持ちでご自身も何かできないかと、芦屋の福祉協会のお仕事をされていること。そして瑠実先生が「日本で長時間透析がもっともっと増えますようにという願いを持っています」と新ためて語られました。このパーティ会場では、患者さんとスタッフの見分けがつきません。それほど坂井クリニックの患者さんは元気です。

長時間の患者さんと4時間の患者さんが、いつかこんな風に集まる機会があれば、すぐに長時間透析が良いのが分かっていただけると思いますと語られました。そのような時が来れば、うれしいことです。

私達患者会でも日々の透析で受けている長時間透析その良さを、この恩恵を、ほかの透析患者さんにお伝えできればと思いました。

楽しい時間はあっという間。すぐにやってくる新しい年にもよきことがあふれますように。　（上田礼子）

## 編集後記

今回は20周年記念特集号であり、平成最後の機関誌になりました。

坂井瑠実クリニックがまだ更地であった頃からの、20年間の個々のストーリーが熱い思いで語られています。

私自身においても20年をふり返ると、多くの先生方やスタッフ、患者さんに出会い、透析の臨床現場を教えて頂き、今があるように思います。坂井瑠実クリニック20年の旅に加わる事ができ大変感謝しています。

今後も日々変わりゆく社会や医療の進歩とともに、腎臓病患者さんに寄り添う坂井瑠実クリニックの更なる旅に貢献させて頂きたいと思います。

（編集委員長／城井　慶子）

発行所　医療法人社団
坂井瑠実クリニック
電話 078-822-8111
〒658-0046
神戸市東灘区御影本町2丁目11-10
発行責任者　坂井瑠実
顧　　問　三上珠実
編集責任者　城井慶子
発行日　平成31年1月31日
印　刷　田中印刷出版株式会社
〒657-0845
神戸市灘区岩屋中町3-1-4

坂井瑠実クリニックホームページ
http://www.sakairumiclinic.jp